

企画展

佐藤助庵 と 茶の湯



石山切 貫之集下（部分） 藤原定信 平安時代後期



古染付群牛水指 中国 明時代末期

2026

2月21日(土)
— 4月12日(日)

会期中無休

開館時間 | 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

観覧料 | 大人210円 高校生以下無料

学芸員による展示解説会

3/7(土)・3/28(土) いずれも14:00より
当館展示室にて ※要観覧料 申込不要



富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)

TEL. (076) 432-9031 FAX. (076) 432-9080

佐藤助庵

と 茶の湯

当館創設者の佐藤助九郎（佐藤家十二代、一八九六～一九七九）は、富山県砺波市に生まれました。大正七年に早稲田大学を卒業後は、家業の土木建設業を継ぎ、実業家としての才能を発揮するとともに、昭和十四年から貴族院議員を務め、戦後も地方政財界の要として活躍しました。

その一方で、漢詩、俳句、書画などをよくした風流人でもありました。そのなかでも茶の湯は、心を傾けました。裏千家十四代淡々斎から「宗越」の茶名をうけ、師と仰いだ松永耳庵（一八七五～一九七二）からは、「助庵」の号をいただいています。そして呉羽山麓に「呉山窯」をおこし、自ら花入や茶碗を作るなど、茶陶を追求し、自身の心に合った茶の湯をたのしみました。そうしたことから、助庵は茶道具を蒐集していますが、中国やペルシアなどの鑑賞陶器や日本の近世・近代絵画など、多岐にわたる美術品も蒐集しています。

本展では、その幅広いコレクションとともに、長年にわたりのしんだ茶の湯をゆかりの作品とあわせて紹介します。展覧会をおして助庵の人となりにふれていただければ幸いです。



銀嶺富士図 与謝蕪村 日本 江戸時代



呉須赤絵人物文盤 漳州窯 中国 明時代末期 17世紀



青釉黒花筋文両手付壺 イラン グルガン 12～13世紀



古伊賀耳付花入 日本 桃山時代



鉄線唐草時給歌書筆筒 伝五十嵐道甫 日本 江戸時代

2026

2月21日 土 — 4月12日 日

会期中無休

開館時間 9:00～17:00

(入館受付は16:30まで)

観覧料 大人210円

高校生以下無料

◇学芸員による展示解説会

3/7(土)・3/28(土)

いずれも14:00～ 当館展示室にて

※申込不要、要観覧料

交通案内

富山駅下車 徒歩10分
市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分
地铁バス「城址公園前」下車 徒歩2分
富山空港より連絡バスで20分
北陸自動車道富山I.C.より車で15分

※駐車場はありません。

最寄りの駐車場は城址公園地下駐車場（有料）となります。

富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)
TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080

